

市町名	沼津市
-----	-----

学校支援地域本部	
放課後子ども教室	
家庭教育支援	○
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	
	H28	○



秋期第4回講座の様子

活動名	自信がもてる子育て講座
実施箇所名	沼津市第一地区センター 沼津市民文化センター
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>この講座は、未就学児から中学生の子どもをもつ保護者や子育てに関心のある方を対象に、子どもへの理解を深め、保護者としてのあり方を学ぶ機会となることを目的として実施している。</p> <p>春期と秋期に分け、各5回ずつ開いている。春期は、5月下旬から6月下旬まで、秋期は9月下旬から10月下旬まで開催した。それぞれ、受付開始日から数日で申込者が定員に達した。これは、人気のある講師陣に加えて、広報活動、託児などが功を奏していると思われる。</p> <p>春期は、比較的小さい子どもの年齢が低い保護者、後期は思春期の子どもをもつ保護者を対象とした講座内容を設定した。保護者への案内は、市内各園・各小中学校を通してのチラシ配布、広報紙や市ホームページへの掲載、子育て団体によるメール配信などで行った。両期合わせて、延べ953人が受講した。</p>
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者のアンケートを見ると、どの講座も満足度が高い。また、自分の子育てを振り返り、すぐによりよい実践に移そうとする意欲が見受けられた。さらに、講演を聴いて自分自身も成長したとを感じるなどの感想も多かった。</li> <li>・講座の中には、小グループで話し合う機会もあり、子育ての悩みを抱える受講者同士の交流の場ともなった。</li> <li>・託児を設定することで、安心して講座に参加できた。</li> </ul>
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会場の都合で、受講者数が限られている。次年度は、できるだけ多くの方が参加できる会場を設定したい。</li> <li>・託児ボランティアの絶対数が少なく、託児を希望する方の一部しか対応できていない。</li> </ul>
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	<p>託児ボランティアは、毎回4～7人程である。受け入れる託児の子どもは、各回15人までとした。ボランティアに加えて、職員も手伝っている。</p>

市町名	富士宮市
-----	------

学校支援地域本部	
放課後子ども教室	
家庭教育支援	○
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	○
	H28	○



人づくり推進員の話に耳を傾ける

活動名	幼・小・中家庭教育学級リーダー講座
実施箇所名	富士宮市役所等
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>市内に組織されている52の家庭教育学級よりリーダーを募り、幼児から中学生までの子育て真っ最中の保護者を対象に講話（年3回）、施設めぐり（年2回）、グループワーク（年2回）等を行っている。</p> <p>講話は、子育ての参考になるものを基本として、講師を選定し実施している。施設めぐりについては、子どもたちが見学等で利用している場所をメインとしてコースを設定している。グループワークは、年度ごとにメンバーが異なるため、情報伝達、情報交換を図ることを中心に話し合いを進めている。</p> <p>子育てという共通項を持つ者同士であることで、抵抗なく参加できることがよい刺激を生んでいると言える。</p> <p>リーダー講座に参加することで、それぞれが成長していくことを望んでいるが、そのことが子供に各家庭にかえっていくことは折に触れ周知し再確認をしている。</p>
活動の成果	<p>参加することにより子育てに対する不安が減少し、子どもが安心して暮らせる環境づくりに役立てていこうという意欲が高まっている。</p> <p>同じ悩みや喜びを持つ者同士のコミュニケーションが図られることで、悩みが薄らいだり、気持ちが安定しすっきりしたという感想が多い。</p>
課題等	<p>全家庭教育学級の人数から見ると、講座に参加できる人数がかぎられてしまう。なるべく大勢の人が参加できるように工夫していきたい。</p>
備考 （ボランティア数、参加した子どもの数等）	<p>講話・グループワーク等では託児ボランティアを要請し、幼児を抱えての保護者が参加しやすいようにしている。</p>

市町名	伊東市
-----	-----

学校支援地域本部	
放課後子ども教室	
家庭教育支援	○
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	
	H28	○



アイスブレイクで打ち解ける参加者

活動名	家庭教育支援講座
実施箇所名	伊東市立池小学校
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>講師2名のうち1名は、地域コーディネーターで、伊東市の家庭教育支援員（アドバイザー）として登録されている。本講座は、小学校のPTAから要請を受け保護者を対象に実施した。</p> <p>今回、小学校を会場に実施したが、講師が教員や元教員ではないこともあり、参加者の本音を引き出しやすく、グループワークでの話し合いが活発になった。</p>
活動の成果	・ 同年代の子どもがいる保護者が互いに子育ての悩みを話す場がなく、良い機会になったという感想が多かった。
課題等	当市の講師は、日中、仕事に従事しており、打合せ等も含めて日程調整が困難なこと。
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	保護者約15人

市町名	富士市
-----	-----

学校支援地域本部	
放課後子ども教室	
家庭教育支援	○
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	
	H28	○



講師と話を聞く小学1年生の保護者

活動名	もうすぐ、一年生～入学前に出来ること、しておきたいこと～
実施箇所名	吉永第一小学校 多目的室
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>小・中学校の新入児童・生徒の保護者を対象に入学説明会などの機会を利用して講演会を行う。</p> <p>講演会の効果を測るため、参加者を対象に満足度調査を実施している。講師としては、(元)学校関係者、主任児童委員、児童相談員、スクールカウンセラー、子育てサークル関係者、保健士、栄養士、小児科医、臨床心理士、青少年指導員等が挙げられる。</p> <p>今回の活動では、富士市の元社会福祉協議会長である松本玲子氏を講師として呼びし、講演会を実施した。小学校入学にあたり、「家庭での毎日を大切にしてほしい。」「子どもとの会話を大切にし、子どもとの約束は守って欲しい。」「子育ては命をつなぐことであり、自立するための支援。小学校時代は、手を離しても目を離さないで欲しい。」と訴えた。</p> <p>また、年度末に各学校にアンケート評価の結果を報告し、次年度の講師選定の参考にできるようにしている。</p>
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小・中学校入学という大きな節目にあたり、保護者に生まれる不安の解消ができています。</li> <li>・保護者のアンケートには、「子供との関わり方を改めて考えるきっかけになりました」「地域の方々との関わり方の大切さ、子供との関わり方を考えさせられました」といった声が挙がっている。</li> </ul>
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師の高齢化が進んでおり、講演会の対象者である保護者との年齢の差が広がりつつある。</li> <li>・まちづくりセンターからヒアリングをする等新しい講師の発掘を試みているが、若い世代の講師の確保が難しい。</li> </ul>
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演会は市内小学校27校、中学校16校にて開催している。</li> <li>・43回の講演会のうち、有償講師は29名、無償講師は14名。</li> </ul>



市町名	裾野市
-----	-----

学校支援地域本部	
放課後子ども教室	
家庭教育支援	○
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	
	H28	○



話し合いの様子

活動名	「つながるシート」を使用した家庭教育講座
実施箇所名	裾野市立深良小学校
活動の概要・特徴 活動上の工夫	裾野市PTA連合会家庭教育委員会で、「つながるシート」を使用した家庭教育講座を開催した。家庭教育支援員の司会進行のもと、アイスブレイクからスタートし、続いて4人グループ6組に分かれて「子どもの心をつかむ」をテーマに、①子どものことをどれだけ知っていますか？（項目：好きな教材、友達の名前、好きなタレント、夢中になっていること、将来なりたいもの）②最近、子どもと話をしていますか？話をしていると答えた人は、どのような内容ですか？話をしていないと答えた人は、どのような理由ですか？③子どもをよく知るために、どのようなことができますか？について話し合いを行った。③については、子ども一人一人と向き合う時間をつくり、話を聞いてあげる。子どもの好きなこと、興味のあることを一緒にする。ママ友や先生から情報を得る。学校との連絡を密にする。などの意見が出ました。
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 色々な意見から自分なりの「答え」を見つけて、これからの子育てに生かすことができる。</li> <li>・ 子育ての悩みを共有することにより、ストレスの解消につながる。</li> </ul>
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 共働きの保護者の参加が難しい。</li> <li>・ 本当に参加してほしい子育てに問題を抱えている家庭や、片親の家庭などの参加がほとんどいない。</li> </ul>
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	対象者は小学生高学年から中学生をもつ保護者、参加人数は24名（うち女性21名、男性3名）、講師は家庭教育支援員3名

市町名	伊豆市
-----	-----

学校支援地域本部	
放課後子ども教室	
家庭教育支援	○
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	
	H28	○



活動名	家庭教育講座
実施箇所名	伊豆市立修善寺東小学校
活動の概要・特徴 活動上の工夫	家庭教育学級の給食試食会に合わせ、つながるシートを使い保護者とのおしゃべり交換会を実施した。テーマはほめ方、叱り方や「早寝早起き朝ごはん」をテーマに意見交換した。給食試食会の後だったので、テーマを食に重点を置き、話しやすいようにした。
活動の成果	日頃の子育てに関するなにげない悩み事などを支援員や同世代の保護者に聞いてもらうことができ、参加者に好評だった。
課題等	参加者を集めるために、何かの行事と組み合わせでの実施になってしまうため、時間が20分と短くなってしまった。
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	参加保護者18名、家庭教育支援員2名

市町名	伊豆市
-----	-----

学校支援地域本部	
放課後子ども教室	
家庭教育支援	○
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	
	H28	○



活動名	家庭教育講座
実施箇所名	子育て支援センター
活動の概要・特徴 活動上の工夫	当初、学校やこども園を対象に家庭教育講座の開講を呼びかけたが、難しかったので、子育て支援センターに家庭教育講座の試行を呼びかけ、3園で実施した。家庭教育支援員の活動の周知を図り、学校などでも実施してもらえるよう、就園前の親子を対象に実施した。
活動の成果	子育ての話題を気軽にでき、お母さんたちに講評だった。将来、園や学校などで支援員を活用してもらえる可能性ができた。
課題等	人数が確定できず、時間までに全員が集合できないので、途中参加の方にも対応するのが難しい。
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	多い時は、参加親子14組、少ない時は2組の時もある。天候や他のイベントにより影響がある。

市町名	伊豆の国市
-----	-------

学校支援地域本部	
放課後子ども教室	
家庭教育支援	○
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	
	H28	○



テーマに対し話し合い支援員からのアドバイスを受ける参加者

活動名	家庭教育支援講座「初めての井戸端会議」
実施箇所名	韭山南小学校
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>同校家庭教育学級開講式において、実施。</p> <p>「子どものみとめ方」をテーマに、学校から帰ってきて宿題をせずゲームを続ける子どもをエピソードにあげ、どんな叱り方をするのか、どのように言葉かけをすれば伝わるのか、親同士が経験談や考えをグループごとに話し合った。</p> <p>始めに、アイスブレイクにより気持ちをほぐし引き続き4～5人のグループ作り、家庭教育支援員からの説明を受け、話し合いを行った。</p> <p>最後に、各グループどのような話しがでたのか発表。家庭教育支援員からのアドバイスを受け終了した。</p> <p>約45分間の講座であった。家庭教育支援員が開催するこの講座は、約1時間で終了するため単独で参加者を集め開催するのは困難である。学校や幼稚園からの依頼により、子どもの送迎の前後や参観日や奉仕作業などの事業を利用し実施している。</p>
活動の成果	・年度当初により、新入学児童の親や違う学年の親が交流を持ち、子育てや学校生活の悩みや不安を気軽の相談できる仲間づくりのきっかけとなった。
課題等	今回、任意で参加する家庭教育学級員を対象としたため、学校活動に積極的な親の参加であったと思われる。本来、このような場を必要とする親の参加を促すことを学校側と考えていく必要がある。
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	参加者28名 家庭教育支援員3名 生涯学習課職員2名 教職員1名



市町名	伊豆の国市
-----	-------

学校支援地域本部	
放課後子ども教室	
家庭教育支援	○
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	
	H28	○



講座の様子

活動名	親学講座「子どもが集団になじむために親のできること」
実施箇所名	長岡南小学校
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>入学説明会において、新入学児童の親対象に家庭教育支援員が講話をおこなった。</p> <p>20分の講話の中で、家庭の役割、親の役割について話をした。</p> <p>個性を重んじて自由に生きることと社会・集団の秩序を重んじて生きること、両方のバランスを取れるようになることが必要。子どもが学校で活動しやすいように送り出すため、生活リズム、睡眠、食事、健康に気を配ることが親のつとめであることなど。よりよい学校生活を送るために家庭での生活がいかに重要であるかを説いた。</p>
活動の成果	新入学を控え、あらゆる面で不安を抱えている保護者の不安や悩みが緩和されたのではないかと見られる。
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入学説明会は、全保護者が集まる唯一の機会であり、もう少し時間をもらい「家庭教育」の重要性を伝えたい。</li> <li>・市内全校で実施できるようにしたい。</li> </ul>
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	家庭教育支援員1名(補佐3名) 保護者75名 職員1名

市町名	伊豆の国市
-----	-------

学校支援地域本部	
放課後子ども教室	
家庭教育支援	○
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	
	H28	○



講師 家庭教育支援員

活動名	親学講座「子どもが集団になじむために親のできること」
実施箇所名	菰山小学校
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>入学説明会において、新入学児童の親対象に家庭教育支援員が講話をおこなった。</p> <p>20分の講話の中で、家庭の役割、親の役割について話をした。</p> <p>個性を重んじて自由に生きることと社会・集団の秩序を重んじて生きること、両方のバランスを取れるようになることが必要。子どもが学校で活動しやすいように送り出すため、生活リズム、睡眠、食事、健康に気を配ることが親のつとめであることなど。よりよい学校生活を送るために家庭での生活がいかに重要であるかを説いた。</p>
活動の成果	新入学を控え、あらゆる面で不安を抱えている保護者の不安や悩みが緩和されたのではないかと見られる。
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入学説明会は、全保護者が集まる唯一の機会であり、もう少し時間をもらい「家庭教育」の重要性を伝えたい。</li> <li>・市内全校で実施できるようにしたい。</li> </ul>
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	家庭教育支援員1名(補佐2名) 保護者100名 職員1名

市町名	河津町
-----	-----

学校支援地域本部	
放課後子ども教室	
家庭教育支援	○
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	
	H28	○



家庭支援員による講座

活動名	家庭教育支援員講座
実施箇所名	各校の家庭教育学級
活動の概要・特徴 活動上の工夫	家庭教育支援員の家庭での認知度を上げるため、各学校毎にある家庭教育学級へ家庭教育支援員を派遣し、講座等を実施。
活動の成果	家庭教育支援員の活動について、知ってもらうことができた。
課題等	・新しく家庭教育支援員となる人材が乏しい。 ・家庭教育支援員の活動内容について家庭で知ってもらうためには、家庭教育学級への派遣を継続して行うことが必要。
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	中学1校、小学校3校、幼稚園1園、計5回講座を実施。

市町名	南伊豆町
-----	------

学校支援地域本部	
放課後子ども教室	
家庭教育支援	○
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	
	H28	○



つながるシートを使い話合う母親

活動名	家庭教育講座（みなみのキッズ版）
実施箇所名	南伊豆町武道館
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>町では、家庭教育の重要性を再確認する場や親同士の交流の場として「家庭教育講座」や「親学講座」を開催しています。今回、子育て支援サークル「みなみのキッズ」の親子を対象に『家庭教育講座（みなみのキッズ版）』を開催しました。</p> <p>たくさんの方に参加していただくため「みなみのキッズ」の総会に合わせて開催しました。司会進行は、家庭教育支援員が行い、「動物カード」でのグループ分けや後出しじゃんけんゲームなど、楽しみながら、豊の上に座を組んでリラックスした様子で話し合われました。内容は、静岡県作成の家庭教育ワークシート「つながるシート」（幼児版）を活用し、エピソードの設問についてみんなで意見交換し、子育てについての悩みや不安を話し合うというものでした。</p>
活動の成果	<p>サークル活動の楽しい雰囲気の中、子育ての悩みや個々の考えなど、真剣に話合われていました。</p> <p>参加した母親からは、「いろんな考え方・接し方を知る事ができて楽しかった。勉強になった。」「グループ分けのお蔭で普段話したことがないお母さん同士で意見を交わす事ができて新鮮だった。」また、他地区から転入した母親からは「他の年代の子どもを持っている地元の母親から話が聞け、とても参考になった。」と感想を頂きました。</p>
課題等	<p>次回も開催希望がありますが、参加者が重複しても良い工夫が必要です。子どもと一緒に参加するため、子どもの機嫌や様子により、話の途中で離れなければならなかったり、会話が中断してしまうことがありました。</p>
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	<p>参加者：就園前の乳幼児の母親32名と乳幼児</p> <p>『みなみのキッズ』…平成27年9月より南伊豆町の幼児期親子で構成された「南伊豆に住む親子を元気にすること！」を掲げた子育て支援サークル。</p>



市町名	南伊豆町
-----	------

学校支援地域本部	
放課後子ども教室	
家庭教育支援	○
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	
	H28	○



活動名	家庭教育支援講座 『叱らなくても子は伸びる～目からうろこの子育てと家庭教育～』
実施箇所名	役場 湯けむりホール
活動の概要・特徴 活動上の工夫	全ての親が安心して“家庭教育”を行えるよう、保護者に学習機会を提供し、しつけなど、家庭教育の重要性について認識を促すため、教育評論家の親野 智可等氏を講師に迎え、役場 湯けむりホールにおいて『叱らなくても子は伸びる～目からうろこの子育てと家庭教育～』という講演会を開催した。ポスターの掲示や町内回覧、町立こども園・小中学校に呼びかけPTAに周知した。親や地域の大人たちが子供への関り方や、子育ての楽しさについて学ぶことにより、親自身の行動が子どもに大きな影響を与えていることを気付いてもらい、社会のルールやマナーを守ること、思いやりや感謝の気持ちを養うためには、家庭での教育が大切だと気付いてもらう。どう子どもに対応したら良いのか迷ったり、悩んでいる保護者の相談やヒントを与える「親の学びの場」として設定した。
活動の成果	休日に町主催で開催したので、学校だと参加しにくい祖父母が今回気軽に参加できたこと、夫婦での参加が可能だったとの感想をいただきました。ユーモアを交えた楽しいお話で、具体的なアイデアを示していただき、参加者にはとても好評でした。「また、ぜひ親野先生にお越しいただきたい」「講演会の後に、他の母親と感想を話し合いたい」「実践してみる」などの声が寄せられました。
課題等	「講演会」という言葉が保護者には難しい印象を与えたという感想もあり、期待したほどの集客ができなかったのが残念でした。託児も設置しましたが利用見込みが測れなかったため、子守りボランティアへの依頼が難しかった。次回からは、宣伝など学校とより連携を行い、託児は予約制にします。
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	講演会参加者：55人 【託児】ボランティア：4人 絵本読み聞かせボランティア「ピロシキ」：2人

市町名	函南町
-----	-----

学校支援地域本部	
放課後子ども教室	
家庭教育支援	○
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	
	H28	○



子育て講演会の様子

活動名	子育て講演会
実施箇所名	函南町文化センター
活動の概要・特徴 活動上の工夫	函南町立幼稚園PTAと共催で、毎年外部講師による講演会を開催している。平成28年度は講師として久保ひとみさんをお呼びした。安心して参加できるよう、未就学児を対象にボランティアによる託児も行っている。
活動の成果	「久保さんの話を聞き、元気をもらえました。自分が今後やりたいことなどを考えるよい機会になりました。」「とても楽しいお話ばかりであったという間の時間でした。」などの意見が聞かれ、子育てについて前向きに考える、楽しい時間を過ごしていただけた。
課題等	文化センターの大ホールで講演会を行っているが、大ホールのキャパシティに対し、参加者が少ない。
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	講演会参加者180人、託児30人、託児ボランティア23名（平成28年度実績）

市町名	清水町
-----	-----

学校支援地域本部	
放課後子ども教室	
家庭教育支援	○
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	
	H28	○



清水町の宝をみんなで応援しよう！

活動名	地域とつながる講演会
実施箇所名	清水小学校
活動の概要・特徴 活動上の工夫	町内在住の大道芸人を講師に招き、ヨーロッパや中米に渡り大道芸の武者修行をした経験を話してもらう機会を設け、パフォーマンスと共に披露してもらった。PTA家庭教育部長の発案により、こうした地域の宝である若い人材をPTAや子どもたちで応援していこうという目的で開催した講演会である。また、今年度から家庭教育支援員配置により、年間を通して小中学校の家庭教育学級の講座に関わり、一緒に講座に参加しながらPTA役員の活動における相談などに対応した。
活動の成果	PTA役員は単年度で交代してしまうが、家庭教育支援員が継続して家庭教育学級に関わっていくことで、講座内容の充実、参加者増加の取組など継続的に図っていくことができる。
課題等	家庭教育学級は、現在、主に平日の昼間に開催しているが、今後参加者の増加や内容の充実を図るため、できるだけ多くの保護者が集まる授業参観終了後などを設定していただくよう学校に働きかけている。
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	

市町名	長泉町
-----	-----

学校支援地域本部	
放課後子ども教室	
家庭教育支援	○
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	
	H28	○



笑顔で悩み解消～支援員によるつながるシート講座～

活動名	長泉町家庭教育支援員事業
実施箇所名	長泉小学校、長泉幼稚園、北幼稚園
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>「つながるシート」を活用し、県の家庭教育支援員養成研修を受けた家庭教育支援員が、講座を行う。</p> <p>平成28年度から30年度までの3年間で、町内の3小学校6幼稚園の9箇所それぞれが、年2回の家庭教育支援員による講座を実施する計画である。初年度である平成28年度は、モデル園・校を長泉小・長泉幼稚園・北幼稚園の3箇所とし、家庭教育学級及び園・校独自の講座の計2回を実施する。</p>
活動の成果	<p>担当課は、家庭教育学級運営委員と支援員、または、園・校の担当者と支援員との連絡・調整を担った。実際には、支援員が積極的に園・校の家庭教育学級委員（保護者）、教員、養成研修を受講中の方等を引き込みながら、皆で講座を作り上げる体制を整えてくださった。このことにより、参加者だけでなく関わった方々への達成感・満足度につながった。</p> <p>保護者から、子育てに大変役立った、安心感を得た等、好評であった。</p>
課題等	平成29年度から、計画を拡大変更し、町内全ての小学校及び幼稚園（1園は除く）で講座を1回実施する。モデル校は、計画通りに引き続き年2回実施する予定である。
備考 （ボランティア数、参加した子どもの数等）	<p>・ボランティアについて</p> <p>幼稚園においては家庭教育学級委員、小学校においては教職員が運営を補助した。</p>



市町名	小山町
-----	-----

学校支援地域本部	
放課後子ども教室	
家庭教育支援	○
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	
	H28	○



紹介項目を確認する学級生たち

活動名	家庭教育学級開校式
実施箇所名	きたこうこども園
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>本年度の開校式の中に講座を組み込んでもらい実施した。 新しい学級生を迎えての初めての会合であるので、お互いを知り、いい関係を作っていけるようにしたいと考えた。 「すごく自己紹介」というつながるシートを工夫作成した。やり方はすごく形式で、自分が振ったサイコロの目の示す事柄について自分のことを紹介していく。紹介する事項は「好きな色」「好きな食べ物」「好きなテレビ番組」「苦手なこと」等、単純で話しやすい事柄を盛りこんだ。4～5人のグループになって、自分の出した目の事柄について発表しコマを進め、一番早くゴールにたどり着いた人が勝ちというものである。 勝ちよりもお互いを知り合うという意図が参加者によく伝わって誰もがしゃべり、大変にぎやかに楽しく進んだ。</p>
活動の成果	<p>・相手のことを知っている思っていた間柄であっても、「そうだったの?」「初めて聞いた。」などの声がたくさん聞かれ、更によくお互いを知る場になったようだった。 ・お互いを知る場になっただけでなく、自分のことを改めて考える場になったという感想があった。普段は、子どもを中心に考えていて自分のことは意識外、改めて自分を見つめたようである。</p>
課題等	<p>・話しやすい事柄なので1つのことで話が弾み、時間が足りなくなった。開校式の中ではなく、時間を充分確保して行いたかったが、他の時間でという集まりが悪くなると思われる。</p>
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	<p>・講師 2名 ・家庭教育学級生 26人</p>

市町名	島田市
-----	-----

学校支援地域本部	
放課後子ども教室	
家庭教育支援	○
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	○
	H28	○



親学講座（小学校就学時健康診断）

活動名	親学講座
実施箇所名	市内18小学校
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>・ 幼児期から児童期へと移り変わる大きな節目を迎える就学前の保護者を対象に実施。</p> <p>&lt;開催内容&gt;</p> <p>・ 各小学校の就学時健康診断や入学説明会時など保護者が一同に集まる場を活用して開催。</p> <p>・ 親学ノート（市で作成）を活用し、アイスブレイクや体験実習などを取り入れ、約15分程度の時間で実施。</p> <p>・ 講師は、島田市ペアレントサポーター 家庭教育サポートチーム（家庭教育支援員）が担当。</p>
活動の成果	<p>・ 平成25年度から実施。定着した講座となった。</p> <p>・ 身近な先輩ママという立場で活動を行なっている島田市ペアレントサポーターが担当し、親の立場や目線で話をすることで、肩の力を抜いて参加者が受講でき、共感する姿が多く見られる。</p>
課題等	<p>・ 親学開催の日程が重なる場合もあるので、人材を確保できるよう育成していくことが必要である。</p>
備考 （ボランティア数、参加した子どもの数等）	<p>就学時健康診断時実施校：14校          一日入学説明会時実施校：4校          ※ペアレントサポーター（家庭教育サポートチーム）：12名</p>

市町名	島田市
-----	-----

学校支援地域本部	
放課後子ども教室	
家庭教育支援	○
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	○
	H28	○



つながるシートを活用した学習会

活動名	つながるシートを活用した学習会
実施箇所名	市内18小学校、1幼稚園、1中学校
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファシリテーターは、島田市ペアレントサポーター家庭教育サポートチームが担当。</li> <li>・家庭教育学級の学習会の1講座として実施。また、学級懇談会やPTA役員研修会など、各学校の要望に応じて対応。</li> <li>・家庭教育学級での実施においては、年度当初の担当役員研修会において、各学級の担当者が体験し『つながるシート』を理解した上で実施することで、テーマの決め方がスムーズに行なえる。</li> </ul>
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭教育学級の学習会の一つとして定着した。</li> <li>・学校からの評価もあり、懇談会や研修会での開催の依頼が増えた。</li> </ul>
課題等	・話し合いのテーマや実態に応じた独自の『つながるシート』を作成できるとよい。
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	家庭教育学級での開催：18校、1幼稚園 懇談会：2校 研修会：3校 ※ ペアレントサポーター（家庭教育サポートチーム）：12名

市町名	島田市
-----	-----

学校支援地域本部	
放課後子ども教室	
家庭教育支援	○
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	○
	H28	○



子育て広場 あかちゃん部

活動名	子育て広場
実施箇所名	市内3ヶ所（学校地域連携室、公民館）
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>子育て中の親や出産を控えた方、その家族が自由に集まり、参加者同士が情報交換をしたり、子どもを遊ばせたりしながら、友達をつくる集いの場。またペアレントサポーターによる相談等の対応も実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て広場 あかちゃん部 会場：市内2ヶ所（六合公民館、金谷公民館） 対象：0歳児の親子 開催：毎月第3水曜日10:00～11:30, 第4金曜日10:00～11:30</li> <li>・子育て広場 ぐう・ちょき・ぱあ 会場：島田第一中学校 地域連携室 対象：子育て中の親子や家族 妊婦も可 開催：毎週木曜日 10:00～11:30</li> <li>・島田市ペアレントサポーター広場チームが担当</li> </ul>
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て中の親の居場所として利用。</li> <li>・中学校で開催している事もあり、長期休みには中学生がボランティアとして活動に参加。</li> <li>・参加している親が、初めて参加する親に声をかけたり、子育ての情報発信するなど交流が自然にもてる雰囲気が育ってきている。</li> </ul>
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居心地のよい居場所として定着しているが、この場に参加して終わりではなく、自分達でも居場所を作ったりサークル的な活動を実施できたりするような人材の育成を行なっていくことも必要である。</li> </ul>
備考 （ボランティア数、参加した子どもの数等）	<p>実施回数：90回 参加者数：2841人（平成27年度実績） ※ ペアレントサポーター（子育て広場チーム）：9人</p>



市町名	焼津市
-----	-----

学校支援地域本部	
放課後子ども教室	
家庭教育支援	○
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	○
	H28	○



講演会の様子

活動名	就学時健診時子育て講演会
実施箇所名	焼津市内小学校(13校)
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>焼津市内小学校における就学時健診の待ち時間を活用し、保護者へ学齢期に入る子供とのコミュニケーションや基本的な生活習慣を身に付けることの大切さについての講演会を行い、改めて家庭教育の重要性を見直す機会づくりを目的として実施している。</p> <p>「小1の壁」と表されるように、小学校入学時は、環境の変化と共に保護者と子供のかかわり方にも不安や心配を持ちやすい時期である。</p> <p>このため、講演会講師には、教職経験者や子育て支援関係者を招き、学齢期に入る子供を持つ保護者の気持ちに寄り添った講演内容（よくある相談や心構え等）となるよう心掛けている。</p> <p>また、基本的な生活習慣においては「早寝・早起き・朝ごはん」の内容を取り入れ、生活サイクルのほか食育についても考えるきっかけとしている。</p>
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家庭教育の大切さを見直す機会づくりを行うことができた。</li> <li>・ 生活習慣と食育に対する理解を深めることができた。</li> </ul>
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保護者のニーズを把握し、講演内容に取り入れていくこと。</li> <li>・ 不安を持つ保護者を必要な支援につなげるための工夫を図ること。</li> </ul>
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	約1,220人(新1年生保護者数)

市町名	湖西市
-----	-----

学校支援地域本部	
放課後子ども教室	
家庭教育支援	○
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	
	H28	○



つながるシートを使ったグループワーク

活動名	家庭教育学級「中央研修会」
実施箇所名	湖西市健康福祉センター
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>小学校１年生を持つ保護者を対象に市内小学校区を単位として家庭教育のあり方について学習する家庭教育学級を開設している。</p> <p>中央研修会では「子育て楽しまなきゃ。しげさんのお話バイキング」の講演会を実施し、その後グループに分かれ「早寝、早起き、朝ごはん」をテーマにしたつながるシートを使った講座を実施しました。</p>
活動の成果	<p>講演会では、保護者たちは講師の話に耳を傾け、熱心にメモをとっていました。つながるシートのグループワークでは普段は顔を合わせない他校のお母さんたちが、テーマを持つことによって自分の思いを話すことができたようでした。最初は緊張した様子も見られましたが、笑顔が広がり話が進んでいました。</p>
課題等	参加者が集まりにくい。
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	参加者：学級生17名

市町名	森町
-----	----

学校支援地域本部	
放課後子ども教室	
家庭教育支援	○
土曜日の教育活動	
その他（通学合宿等）	

実施年度	H27	○
	H28	○



和やかに話し合いをする参加者

活動名	家庭教育支援講座
実施箇所名	森中学校・飯田小学校・宮園小学校・天方小学校・森幼稚園
活動の概要・特徴 活動上の工夫	<p>家庭教育力向上と親の交流を深めることを目的に、家庭教育支援員を配置し、学校等との連携により、保護者への学習機会の提供を実施しています。</p> <p>活動は、幼児教育学級（幼稚園）、家庭教育学級（小学校）、親子教育学級（中学校）の各種学級（町委託事業）で行う学習会の支援です。</p> <p>講座は、身近なエピソードや資料が載ったワークシート（つながるシート）をもとに、保護者たちが意見を交換します。まず支援員は、主旨やルールなどの説明をします。次にアイスブレイクをしてリラックスした雰囲気作りに努めるとともに、グループ作りをします。アイスブレイクに支援員が参加したり、学校の先生も参加してエピソードの寸劇を披露したりすることで、会場全体の一体感を作ります。支援員は、参加者の話し合いが進むよう、その後の意見交換では上手な聞き役に努めます。親が子どもの健やかな成長を願い、互いに子育てや家庭教育について学び合えるような内容を心掛けています。</p>
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いの中で、親同士が日ごろの悩みや不安について相談することができました。</li> <li>・親が自分の子育てや家庭教育を振り返ったり、仲間から新たな情報を得たりして、学び合うことができました。</li> <li>・普段話すことのない親とも話し合うことができ、親同士のつながりを広め、深めることができました。</li> </ul>
課題等	支援員が講座の内容を理解するため、事前の打合せを複数回行う必要がありますが、毎回の打合せに全員の支援員が集まることは難しいです。また、町主催で支援員の研修会を行うことができないので、スキルアップが難しいです。
備考 (ボランティア数、参加した子どもの数等)	支援員は28年度6名で、幼稚園2園、小学校4校、中学校1校、三歳児親子学級で支援員の講座を開催しました（予定を含める）。また、就学時健診では、支援員と活動の紹介や、早寝早起き朝ごはんについてのお話をしました。